

8-4-11 河川構造物専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 河川構造物専門委員会の開催

委員会開催回数：10回

技術委員会をはじめ各委員会からの報告・連絡、及び、河川構造物専門委員会での取り組み内容について、検討・審議を行った。柔軟な働き方への配慮と出席率向上を目的に、対面会議とTeams等によるWeb会議を併用して開催した。

(2) 「河川砂防技術基準(案)設計編(河川構造物：排水機場)改定に向けた作業部会」への臨時委員派遣

河川砂防技術基準-設計編-第1章河川構造物の設計の中の「第11節排水機場」の改定に向け、国土交通省水管理・国土保全局が設置した「河川砂防技術基準(案)設計編(河川構造物：排水機場)改定に向けた作業部会」への参加要請を受け、排水機場の設計に係る経験者の立場から臨時委員として2名派遣した。

(3) 河川砂防技術基準〔設計編〕の改定に伴う講習会の企画・実施

河川構造物専門委員会では、令和元年度以降「河川構造物の耐震性能照査指針」、「河川堤防の液状化対策の手引き」及び「河川砂防技術基準〔設計編〕」の改定に伴う講習会を開催。また、令和4年度には、若手技術者の技術力向上を目的とした「河川砂防技術基準〔設計編〕」に関する講習会を開催した。令和5年度以降も順次改定が追加されているが、新旧基準の違いや改定の経緯等が十分理解できていないまま業務に従事している担当技術者が多いと想定されたため、日頃の業務執行上での悩み解消や基準への理解の深化を目的として講習会を開催した。

開催後のアンケートでは約80%の方が満足と回答し、次回開催希望も多かったため、継続開催を予定。

(4) 「詳細設計照査要領(建コン版)」の作成

河川構造物の詳細設計照査要領は、現在3工種が国土交通省より公表されているが、8工種

は未整備のままである。令和4年度には堰編、令和6年度には水門編を建コン版として公表した。令和7年度は新たに床止め工編を建コン版として作成、照査要領の充実化を図り、会員HPに公表した。

(5) 照査特別WGへの参画、品質セミナー講師派遣

照査特別WGへ委員を派遣し、設計ミス防止のための「品質セミナー」に向けて、河川構造物の設計におけるエラー事例の収集と、エラー事例を基にしたテキスト、セミナー用PPTを作成した。また、今年のセミナーもビデオ配信による実施となったため、撮影時の講師を1名派遣した。

(6) 全国建設研修センターへの講師派遣

(一財)全国建設研修センターで開催される「河川構造物設計研修」に対して、平成21年度より共催で取り組み、河川構造物の特徴・設計の考え方、基礎工設計・演習、擁壁の構造設計手法、樋門の設計・演習に関する4日間の研修に対してテキストを作成し講師を3名派遣した。

(7) その他

主な活動を以下に示す。

- a) 対外活動委員会WG(水機構)への参画
- b) 河川管理研究会・被災から学ぶWGへの参画
- c) 業務研究発表会WGへの参画
- d) RCCM自主学習教材改定作業
- e) ドローンを活用した河川巡視・点検への適用検討会への参画

2. 次年度の活動について

- ・照査特別WGへの参画、品質セミナーテキスト作成と講師の派遣
- ・「河川構造物設計研修」講師派遣
- ・RCCM教材の改訂作業への参画(継続)
- ・各種委員会・WG(CIM関連等)への参画
- ・河川構造物の技術に関する講習会の開催
- ・詳細設計照査要領の改訂版作成
- ・災害発生時は、災害対応とその活動報告

(河川構造物専門委員会委員長 本田 正修)